

残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(117号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL/0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子

信仰:あなたのおことばどおり

● 2017年も主のご降誕を祝うクリスマスの季節になりました。クリスマスの準備をしながら、この年は主からどのような恵みを受けたかをひとつひとつ数え、神に感謝をささげる月にしたいですね。

● 4冊用いているディボーションガイドの1冊のヘンリー・ナウエン著「今日のパン、明日の糧」の中に宣教についてすべてを引用したいほどの興味深い表現がありました。

● 「宣教とは、イエスのみ名によって行動することです。」それは、私たちが愛の内にイエスと結ばれていて(イエスのみ名の中に、イエスとの親しい交わりに留まり)、そこに深い安らぎを持つ者として働くとき、私たちのすることすべてが宣教活動になって行くと言明しています。

● このことを、このクリスマス・シーズンに黙想すると、きっと皆さんも、あのクリスマス物語のマリヤを思い浮かべるに違いありません。

● マリヤが何千年にもわたって先祖から伝えられてきた救い主の誕生に心を馳せていなかったならば、この世では起こりえない想像も出来ない天使の告知に、戸惑い、驚きながらも「ほんとうに、私は主のはしめです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」(ルカ1/38)とは応えることは出来なかったと思います。

● 信仰の父と言われるダビデも、あのような大きな罪を犯しながら、失敗した時だけではなく、いつも神に尋ね求めて与えられた神の言葉に忠実に従って歩きました。それで神の祝福を受け続けられたのだということが分かります。

● それに対して、「ソロモンの栄華」と表され、イスラエルが最高の繁栄を誇っていた時代も、そのソロモンが次第に神の命令を軽んじ、結果的に国家内の分裂に繋がりました。

● 列王記では、神は「これでもか」と言わんばかりに次々と預言者を送り、神との約束を忠告しても、ほとんどの王が「彼の心はダビデの心のように、彼の神、主と全く一つにはなっていないかった。」と記されて、神の祝福を逃しています。

● 私たちクリスチャンは、神の一方的な憐れみと恵みによって救いを与えられています。しかし、この世で生活している間は完全ではありません。インマヌエル「神が我らと共にいる」との約束を軽んじて、神の望む「霊に属する人」から退き、古い自己中心的な自我に誘われて「肉に属する人」のままでいるのではないかと問われています。

● 「神のみ名に生きる」こと、それは自分が「今与えられているこの場所」で、主のみ心を問いながら行動すること、このことが神が求めている最大の宣教の業ではないかと教えられています。

● みなさんそれぞれが、健康が守られ、良きクリスマス・シーズンを送られますように、感謝と共に祈ります。

先月の多くの恵みから

① 7月より建設が進んでいたICC(石巻クリスチャン・センター)が完成し、11/11に献堂式が行われました。石巻地区の福音宣教の拠点として尊く用いられるようお祈り下さい。

② 10/14に、横浜のシャローム福音キリスト教会より2018年度の「聖句カレンダー:いのちの泉」を沢山献品頂きました。30部を「希望の家」(Dean師)で用いていただくことにしました。毎年のご配慮に感謝します。

③ 12/4-8にわたり、博多ニューライフ教会の元 菊枝姉と2名の姉妹が、昨年に引き続き宮城の被災者のために「クリスマス・ツリー」制作の奉仕をして下さいます。仙台の



のほか、石巻では12/6に「祈りの家」、12/7に「希望の家」で奉仕をして下さいます。

④ 11月には、いのちの糧「ディリー・ブレッド」12-2月号、そして友人、兄姉、教会から秋の味覚の果物やお米、献金、メール、手紙、電話の励ましをいただき、群の活動を祈りと共に支えていただき心から感謝しております。

⑤ 11/24ゴスペルシンガーの斎藤直江さんが訪問下さり、26日まで石巻の各教会でコンサートの奉仕をして下さいました。

⑥ 11/8に、故鈴木姉の長兄五十嵐さんから電話を頂き、残された高齢のご主人Frankさんが群の様子を知りたいと言われていると連絡をいただきました。早速写真と共にメールできました。

⑦ 11/3に、震災後繋がった南三陸の海産物店「民子の店」を、11/10には長くベッド生活だった友人を古川に、さらに中学校の恩師の葬儀で弔辞を依頼され、11/15に米澤へと訪問が続きました。運転も守られ、新しいつながりにも恵まれました。

⑧ 地本紙「石巻かほく」の依頼で書いたコラムを読んで下さった様々な方と繋がる機会を与えてもらい、感謝しています。

⑨ 次年度の第4回「3.11東日本大震災追悼記念会」の準備と経済的な必要のためにお祈り下さい。

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

- ① 自宅で療養中の大平姉と求道中のガンと闘っている今野かつ子さん、頭部の腫瘍のために10/30に手術された(手術成功)のDeiさんの完全な癒やしのために続けて祈りの支えをお願いします。
- ② 市内の新しく開拓を始めた教会に、その教会を支える地元の家族が救われるようにお祈り下さい。

群の定期集会

・礼拝(毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会(毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time(第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」(第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸(第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援(地域の子どもの要望に応じて)	

信仰を詠う

12月 ときめき 2

発表会の子らの楽の音みずみずし

まなこつぶれば ほろほろ濡れる

子ら奏ずういういしさにまどろみて

するりとぬける 昨日の重たさ

寄り添って下さいと ただ祈ってた

下を向いてた あの人に会える



阿部 八重子

11月18日、ピアノを教えている姉妹の発表会、毎年聴かせて戴く。お子さん達の上達にうるうるしてしまいました。向上心のない自分を発奮させてもらいました。

10月末から11月末までに来訪された先生・兄弟/「祈りの家」の地区教会活動との関わり



11/11 待ちに待った「ICC(石巻クリスチャン・センター)」が完成して献堂式が行われた

10/29 帰国されたDean師ご夫妻が礼拝参加

10/30 手術直前のDeiさんを訪問し、祈る



11/3 久しぶりに「民子の店」訪問

11/10 45年付き合いの友人を訪問

11/15 恩師の葬儀で米澤へ

11/18 妻のピアノ教室発表会で撮影の手伝い

秋の味覚が次々と



11/26 クリスマス用品を作成し、軽食を摂りながら聖書の話

シャローム福音Cより今年も

斎藤直江さんとRadant Mass Choirが石巻で奉仕

直江さんと女川で

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在りの意

信仰の歩みの中で

おしょうしな！

キリスト教会「石巻祈りの家」代表 阿部 一

1964年の東京オリンピック開催の年に、私は新設の県立酒田工業高校に赴任した。酒田に知人もなく下宿探しに困っていたとき、大学のKGK(キリスト者学生会)の友人、現在も交わりと支援をいただいている酒田出身の藤井 斉兄のご両親が探して下さい。そこは「本間様にも及びもせねが、せめてなりたや殿様に」と言われた豪商本間家の第2分家の家であった。

母が挨拶に来てくれて、手土産の城下町米沢の銘菓を差し上げた時に、その奥様が「もっけだの」と言って受け取られた。帰り道で母から「お菓子を貰って、『儲けたね』というのはどういうこと？」と問われた。酒田での生活が浅かった私自身も不思議に思っていた。酒田の生活に慣れるとともに、次第にそのニュアンスが分かるようになって来た。それは相手への感謝やすまない気持ちを表すときの「有り難う(希有)」の意味であった。

狭いと言われる日本でも場所が違えば、このように日常語も違う。私の生まれた米澤では、この「有り難う」は「おしょうしな」と言う。その時の気持ちは現地の人にはその抑揚でよく分かるが、外部の人にはちんぷんかんぷんだろうと思う。

もう20年近くも前のことであるが、私の教え子が高校の国語の教師となっていた。その教え子が大阪の人と結婚することになり、式を大阪でやるのでは是非来て欲しいと案内をもらった。そのことを知って、今や世界的に有名な「地球外生命体を世界中の望遠鏡を同時に駆使して研究」している元同僚が、是非自分の働いている「西はりま天文台」を訪ねるように勧めてくれた。そこで、結婚式の日の前々日に、その天文台がある兵庫県佐用町に出かけた。夕方に天文台を訪ねたが、残念ながら曇り空で星空を観察できなかったが、大型の望遠鏡を操作しながら、自分の研究の内容を熱く語ってくれた。彼の車で、インターネットで探して予約しておいた駅近くの宿に戻った。電話での予約の際に、「この宿は昔からの富山の薬屋さんなどが利用する木賃宿で、食事は出せないが、近くにコンビニがある」というお話しであった。その夜は、外はかなり冷えていた。ところが、部屋に入って驚いた。部屋が石油ストーブで暖かくなっており、布団にも湯たんぽが入っていた。さらに夕食にとおにぎりとお漬物、お茶を用意してくださっていた。



翌朝も美味しい地元の食材を用いた朝食まで準備して下さいたのである。帰宅後、この時の温かいおもてなしに感謝の手紙を送ったのがきっかけとなり、この宿の家族とは長い付き合いをさせていただいた。

朝食をいただきながら、途中姫路を通ることを思い出した。折角だから姫路城を觀てから大阪に向かおうと在来線の姫新線の鈍行に乗った。その姫路までの1時間以上の間、車内でこの地方の乗客の話し内容が数字以外は全然理解できなかったのである。私の耳は、まさに外国語を聴いている感覚だった。同じ日本でもこれだけことばが違うのだと身をもって知った経験だった。姫路城では、韓国から観光旅行に来ていた日本語が理解できない女子大生二人連れと知り合い、恥ずかしくもなく私のブローケン・イングリッシュで案内し、その壮大で美しい姫路城を感嘆のことばをはきながら共有できた。

長い前置きになったが、実は言いたいこと事は以下のことである。この11月に漸く発注していた「新改訳聖書2017」が届いた。もう一度求道者の気持ちで創世記から聖書を読んでみようかと決意した。そして、インターネットで何か良いガイドがないかと捜していたときに、北海道の空知太栄光キリスト教会銘形秀則牧師が解説している「牧師の書齋」に出会った。そしてその解説に、今まで学んでいた聖書は何だったのかと打ちのめされるほどのショックを受けて、各巻分を印刷して学びを続けている。現在「歴代誌上」まで進んだが、77歳の脳はその解説の深さには到達できないが、少しでも理解したいと挑戦中である。その学びの中で、「本は、特に聖書は、原語とその背景と文化を理解して読まなければ本当の意味は分からない」と指摘されている。それはヘブル的視点で聖書を読み直す必要があるということである。「有り難う」の日本語も地域によってこれだけ違い、さらにイントネーションがわずかに違うだけで、その意図する意味が微妙に違うようになるのと同じである。ギリシャ語は化学でも用いるのでなんとか読める(意味は分からないが、英語の語源になっているのもあり「なるほど」と喜んでいる)。ヘブル語は、昔の日本語と同様に、右から書き始めそのアルファベットも似たものが多く、区別が付けにくい。その上、元々子音だけの文字に、発音出来るように母音が近代になって付けられた。その母音も・やーなどの組み合わせだからややこしい。何よりもそれは「慣れて」いないのである。銘形師は、重要な単語については本文中で解説しているし、現在のインターネット時代に感謝すべき事に、様々なヘブル語学習資料が無料で入手できる。「(Under construction/工事中)の身」は、少しでも完成に向けて設計図を正しく理解したいと願っているが・・・実際のところ脳の退化との戦いである。シャローム！